

珊瑚樹記念堂(本校の周辺史跡紹介) 1

西郷隆盛誕生地



本校に掲示されている写真

西郷隆盛誕生地は、本校体育館横の交差点から50mほどのところにあります。(下の写真にも本校の体育館が映っています。)

隣は教会と民家になっていますが、ベンチもおかれ、小さな公園になっています。(西郷隆盛誕生地としての駐車場はありません。)



入口標識

維新ふるさと館の駐車場



案内標識



入口標識側からみた公園の全景です。

隆盛の大きな碑の手前にある小さな碑は弟従道の碑です。

左側の大きな石碑には建設の趣旨と賛同者の氏名が記されています。左の写真でその碑の陰になっている部分に鹿児島市によって案内板が設置されています。



石碑の表側
「西郷隆盛君誕生之地」とあります



石碑の裏側
「明治二十二年三月二十日建」とあります

すぐ近くにある大久保利通の碑と比べると形状は同じように作られており、さらによく見ると碑文、建立の趣旨、共建者、建立年月日なども同じであることに気づきます。

明治二十二年二月に西郷らに対して大赦令が發布されたことと期を同じくして、同年三月、二人を知る関係者が二人の碑を同時に建立したということです。



甲突川よりの出口付近に鹿児島市が設置した案内板があります。

案内板は、次のようになっています。

左側	上	説明文
	下	西郷家系図
中央	上	写真
	下	年譜
右川	上	説明文英文
	下	地図

次ページからその内容を紹介します。

西郷隆盛誕生地の案内板（鹿児島市観光課作成）の本文

さいごうたかもり
西郷隆盛誕生地

時代をにらんだウドメサア － 身体も心も目玉も大きかった西郷さん－

「大きくたたけば大きく鳴る。小さくたたけば小さく鳴る」と土佐の坂本龍馬^{さかもとりょうま}を驚かせた薩摩の「ウドメサア」（目の大きな人のこと）西郷隆盛^{さいごうたかもり}の器量の大きさは、彼が生まれ育った下加治屋町^{したかじやまち}の郷中^{ごじゅう}教育によって培われたといわれています。

1827年（文政10）西郷は下級武士^{ぶんせい}の家の7人兄弟の長男として誕生（海軍大臣を勤めた従道^{つぐみち}は三男）。貧しい生活の中で藩校造士館^{ぞうしかん}に通い、次第に下加治屋町郷中の少年達のリーダーとして頭角を現します。鹿児島の町には独特の若者組織があり、町毎に区切られた郷中という単位で少年たちが集まり、厳しくしつけられるのです。

西郷は13歳のとき、右腕を負傷し武芸はあきらめましたが、その分勉学に励み、二才頭^{にせがしら}として郷中の仲間の人望を集めました。西郷の指導者としての有能さは、この郷中から多くの偉人が育ったことからもうかがえます。

17歳で郡方書役助^{こおりかたかきやくすけ}という地方役人となり、農村を回り、農政について意見をまとめました。これが後に英明藩主^{えいめいはんしゅ}といわれた島津斉彬^{しまづなりあきら}の目にとまり、やがて日本を舞台に活躍する足掛かりとなったのです。

Saigo Takamori's Birthplace

HIS BIG EYES SAW THE WINDS OF CHANGE

・ ・ Saigo was known as a big man, with big eyes, and a broad mind ・ ・

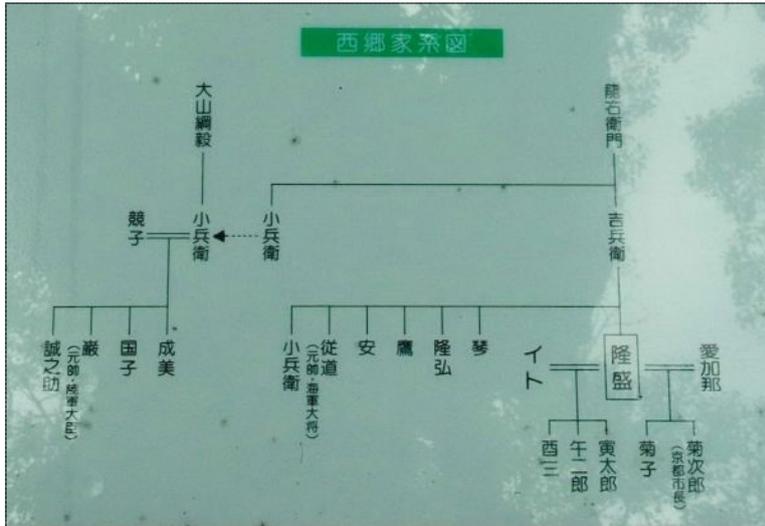
"The harder you strike a bell, the louder it will ring. The lighter you strike a bell, the softer it will ring." Thus spoke Sakamoto Ryoma of the big man with the big eyes. Saigo's great personality was fostered in the goju schools of Kajiya-machi.

In 1827, Saigo was born into a lower-class samurai family as the eldest of seven children. (The third son, Tsugumichi, became minister of the Navy.) In spite of his poverty Saigo went to a Zoshikan, a public Satsuma school, and made a conspicuous figure as a leader among the students. There was a unique organization for training the Satsuma youth, whereby boys assembled in districts known as goju.

When he was thirteen, Saigo was wounded in the right arm and gave up martial arts. Thereafter, he concentrated on academic studies and gained a high reputation as a *nise-gashira* (leader of the boys) at a school where many great men studied.

When he was 17, he became an inspector of farms. His ideas about agriculture caught the attention of Lord Nariakira, and Saigo won his opportunity to take an important part in Japan's modern history.

案内板の系図，写真，年譜



案内板中央上の写真

案内板左下の西郷家家系図
西郷は大山巖は従兄弟にあたる

西郷隆盛年譜	大久保利通年譜
誕生	1827(文政10)
郡方書役助として出仕	1830(天保元)
島津斉彬のもとで御庭方役となる	誕生
月照と錦江湾に入水、西郷蘇生 奄美大島に配流させられる	記録所書役助として出仕
2月よびもどされて上京 6月徳之島へ遠島となる 8月沖永良部島に移され入牢	お由羅騒動により罷免 謹慎を解かれて蔵役へ昇進
よびもどされて藩の軍賦役となる 薩長同盟を結ぶ	1844(弘化元)
王政復古に活躍し政府参与となる	1846(弘化3)
戊辰戦争で東征大総督参謀 4月江戸城を無血開城する	1850(嘉永3)
鹿兒島藩大参事となる	1853(嘉永6)
参議となる 鹿藩置県に尽力する	1854(安政元)
参議兼陸軍元帅 近衛都督となる	1857(安政4)
陸軍大将となる 11月帰郷	1858(安政5)
私学校をつくる	1861(文久元)
西南戦争に敗れ、9月城山で自刃 (49歳)	1862(文久2)
	1863(文久3)
	1864(元治元)
	1866(慶応2)
	1867(慶応3)
	1868(明治元)
	1869(明治2)
	1870(明治3)
	1871(明治4)
	1872(明治5)
	1873(明治6)
	1874(明治7)
	1875(明治8)
	1877(明治10)
	1878(明治11)
	御庭目付となる
	御小納戸役となる
	御側役となる 薩英戦争に参加
	王政復古に活躍し政府参与となる
	参議となる
	民部省御用掛となる
	大蔵卿となる 欧米視察に出発
	欧米から帰国 参議となる
	内務卿を兼ね、殖産興業に尽くす
	佐賀の乱を鎮定
	北京会談で台湾問題を解決
	地租改正事務局総裁となる
	5月東京紀尾井坂で暗殺される (47歳)

案内板中央下の年譜
大久保と比較して示されている



建設の趣旨が書かれた碑文

〔下の文章は書かれている文字を起こして見たものです。不明な文字もあり写し間違っていたらお許し下さい。〕

西郷君以文政十年丁亥十二月七日生於
鹿兒島城下加治屋町此處即君之宅址
也我輩與君同鄉里得其風采德音於見聞
之際景仰欽慕不能自止恐歲月之久遺蹟
或歸湮滅於是相謀建一碑以傳永遠庶幾
後之生長此鄉者有所感發興起焉
明治二十二年三月二十日建



共建者の氏名一覧

〔17人×縦5人で合計85人の氏名が書かれています。主な人物を下にあげてみました。大久保碑と全く同じ人物が並んでいます。〕

東郷平八郎	西郷菊次郎
西郷寅太郎	西郷山次郎
西郷保次郎	大久保從道
大野利和郎	大久保為楨
牧野伸顯	黒木楨

本校に珊瑚樹記念堂前に写真とともに掲示されている「西郷隆盛」の説明文

(原文は縦書き 文章は原文のまま)

西郷隆盛 贈 正三位

隆永（通称吉之助）→ 南洲

文政十年十二月七日加治屋町生

安政元年蕃主斉彬に用いられ江戸へ、通商条約調印、慶福が將軍職を嗣ぎ井伊直弼の大弾圧（安政の大獄）があり、かつ斉彬が病死したため、一時殉死を決心したが、僧月照と共に薩摩にのがれた。蕃当局は隆盛に謹慎を命じ月照の入蕃を拒んだ。それで二人は鹿児島湾に身を投じた。隆盛は助かり菊池源吾と改名し大島に流された。許されてのち尊王攘夷派の指導を始めた。久光の命に背き、徳之島に流され、元治元年許される。薩摩蕃賦役となり禁門の変、第一次長州征伐で活躍。慶応二年長州藩の木戸孝允らと薩長連合盟約を結ぶ。征韓論を唱えたが敗れ、のち西南の役をおこしたが、鹿児島島の城山に包囲され自刃した。